

風土記の丘の花だより²⁵⁴

今、そしてこれから見られる植物(2024年9月28日)

急に秋めいてきました。このまま秋になって欲しいものですが、そんなにうまくはいかないでしょうね。ツクツウボウシの声がまだわずかに聞こえますが、夏の虫たちは姿を消し、秋の虫に入れ替わってきています。先日、トイレの壁でウマオイを見つけました。スーイッチョンです。



ヒガンバナが咲いています。秋の彼岸に咲くのでヒガンバナ、またの名前を曼珠沙華(まんじゅしゃげ)といいますね。この名前は、サンスクリット語が元になっているようで難しいことはわかりませんが、一説では、何かいいことが起こる前兆として、天から降ってくる花ということだそうです。それにしても、風土記のヒガンバナ、今年は遅いうえに、少ないですね。白花ももうすぐ咲くでしょうか。縁起が悪いと嫌う人もいますが、きれいでとても素敵な花ですよ。



他の木などに巻き付いてタンキリマメ(左)とトキリマメ(右)のそっくりさんが黄色い花を咲かせています。名前も、すがた形もそっくりですね。まだできていませんが、豆の形もそっくりです。風土記ではトキリマメの方が多いです。葉を比べてみると、横に幅広く見えるのがタンキリで、先がとがっていて細長く見えるのがトキリです。両者を比べるとハッキリ分かりますので、時間のある方は探してみてください。ちなみにタンキリは痰切り、トキリは吐切りです。



ヒヨドリが里におりてくる頃に咲くのでヒヨドリバナなのか、ヒヨドリバナが咲く頃に里におりてくるので、ヒヨドリなのか、よくわかりませんが、この花はヒヨドリバナです。ヒヨドリもよく見かけるようになりました。秋の七草のフジバカマとよく似ていますが、これはフジバカマのように葉が3つに分かれることは、まずありません。フジバカマもすべての葉が3裂するわけではありませんが、それが一番わかりやすい区別点ではないでしょうか。



これからハギの花がたくさん咲いてきます。万葉植物園などで、ツクシハギが咲き始めました。花に白い部分が多く、他のハギと区別しやすい花です。ツクシとは、スギナのつくし(土筆)ではなく、昔の筑紫の国のツクシです。九州の方で多く分布していたのでしょうか。でも、九州だけに限らず、公園などでもよく見かけるハギの一種です。

松下